

人権コラム(第42回) 2026年の干支から考えよう

人権コラム第42回目を担当する人権・地域教育課です。

右の写真をご覧ください。檀原神宮の絵馬です。この絵馬は檀原市在住の藤本静宏さんによって描かれたものです。今年の干支である『午』(うま)が描かれており、参拝者の多くが写真を撮られたのではないかと思います。



さて、今回は左端に描かれている『令和八年丙午之歳』から考えたいと思います。『丙午』というと出生率が下がるとのイメージがあるのではないのでしょうか。事実60年前の1966年(昭和41年)の出生数は136万974人でなんと前年から25%も減りました。『丙午』の『午』が子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の『十二支』の順番であることは分かると思います。では『丙』とはいったい何なのでしょう。「甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)・戊(ぼ)・己(き)・庚(こう)・辛(しん)・壬(じん)・癸(き)」という『十干』はご存じでしょうか。日常的にはあまり使われていませんが、契約書などに登場します。身近なところではアニメ『鬼滅の刃』の鬼殺隊の階級でも使われていて、最初に与えられる最下級の「みずのと」からスタートします。10番目の癸(き)は「みずのと」とも読みます。そして、『十二支』と『十干』を順番に組み合わせると、「甲子・乙丑・丙寅……」と続いていきます。10個と12の個の組み合わせですので、最小公倍数である60で一巡します。この考え方が『還暦』です。すなわち、『丙午』は60年に1回巡ってくるただの順番ですが、『丙午』に産まれた女性は夫を食い殺すや不幸にするなどの『迷信』があり、60年前の出生数の減少につながりました。

今、『丙午』を気にする人は少なく1966年のようなことにはならないと予想している人が多いようですが、60年前にも『丙午』は迷信であることを伝えていたテレビや新聞があったそうです。1965年1月19日付の毎日新聞朝刊の女性読者の投稿を紹介します。

【この間の婦人会で、来年はひのえうまだから、これから結婚する人は来年子供を産まないようにしなければいけないって話が出たのよ(中略)迷信ということは百も承知で、なお、人のいやがることは避けよう、というのが人間の気持でしょう】

60年前のこの投稿に対して、今、「人のいやがることは避けよう」という気持ちは何となく共感できる。」や「個人が『丙午』の出産を避けることは、迷惑をかける行為ではないので、気にする人は『丙午』の出産を避ければいい。」などの考え方をどのように思いますか。私は『迷信』を守る考え方につながると考えます。そして、『迷信』と分かっているが避けようという気持ちの人が、自分の身近で大切な人が出産したときに心の底から喜べますか?と問いたいです。このように考えると人権教育は他人のためにするのではなく、自分のためにするというのが分かって

くと思います。しかし、投稿にある「人のいやがることは避けよう、というのが人間の気持ちで
しょう」という感情は誰しもがもつものかもしれませんね。そしてそこが人間の弱さだとも思いま
す。『丙午』という『迷信』について考えることは自分の心の弱さと向き合う機会になるのではな
いでしょうか。

市職員のみなさん、『丙午』についてどう感じますか。